

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	2190100012		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム中西郷		
所在地	岐阜県岐阜市中西郷1丁目71番地		
自己評価作成日	令和6年12月6日	評価結果市町村受理日	令和7年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100012-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和6年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針にも掲げているように、生活機能に関する助言をPTさんにいただき、病歴、体調を考慮しながら目標を決めて、体力や体幹機能保持ができるよう支援させていただいています。食事量が少なくなっている方に対しても、食べやすいものを提供できるように個別に工夫、対応を行っております。申し送りやきずきシートなど情報を共有することで病気等の早期発見に努めています。笑顔でお過ごしいただけるように、以前のように外出の機会を設けています。(お誕生日外出など)自立支援介護を取り入れ、水分、栄養を摂り、無理のない範囲で運動されたりと、お元気で過ごしていただけるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員の笑顔が絶えず、いつもどこからか楽しそうな笑い声が聞こえている。共同生活の場であるという必要最低限のルールを守った上で、ホームで暮らしているから「できない」のではなく、自由に過ごし、みんなで楽しめる生活を実践している。ホームブログに、広く利用者の日常の様子を写真で紹介し、それを見た「いつも見てます」の家族からの声掛けがきっかけで、話が広がっている。職員が積極的に出し合った意見や提案を、ホーム長が受け止め、先ずは実行し、実行後の結果の検証で出てきた課題を改善して行く体制を取っている。ホーム目標の一つとなっている、「相手の立場になって考えられるチームケア」に則った、職員の自主性のある、良好なチームワークが感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社で定めた運営理念、ホームで掲げた理念等、朝礼・夕礼時に唱和し、本日の目標を決めて実践しています。	法人理念・エリア目標・ホーム目標と、職員にとっての道標があり、意義を共有し、チームケアの実践に繋げている。日々変化する状況の対応を考え、「本日の目標」を掲げ、ケアの統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	福祉村の行事や地域のお祭りに参加し、地域との交流ができるように心がけています。(今年も、地域行事も行われておらず、参加できておりません。)ブログの配信を多くできるよう心掛けています。	コロナ禍以降、地域との繋がりの希薄が否めない状況の中、職員自身が地域資源となり、知り合いに声をかける等、外部者と交流ができるように働きかけている。今年度は、職員の知り合いの音楽の先生をホームに招き、交流している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、行事や運営状況の報告を行っています。地域包括や、薬剤師、民生委員の方からアドバイスをいただき、スタッフ会議等で情報共有を行っています。レク時に開催など工夫しています。	会議をホーム行事に合わせる等を工夫し、家族の参加を促している。会議の中では、ニュースで報じられるような高齢者問題や課題について、参加者から質問があり、話し合う事もある。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議や、運営推進会議への参加をいただきたくなど、電話での相談等を行っています。(R3.11.26以降 会議はございません。	市の担当者とは、顔見知りの関係性あり、必要時に、運営に関する不明点等を相談している。地域包括支援センターには、今年度、愛の家グループホーム開催の事例発表会に参加を依頼し、ホームの取組みをより深く知ってもらう機会を設けている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人からも身体拘束に関する基準の説明とマニュアルの設置が義務づけられている。ホーム内でも定期的に研修を行っています。ホーム内での身体拘束は行っていません。	委員会で支援の振り返りを行う際、法人内の共通様式となっている不適切ケアチェックリストを活用し、身体拘束に繋がりそうな事項を確認している。また、ホーム内研修を実施し、職員の意識を高めている。現在、身体拘束に当たる事例は無い。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人からも虐待防止に関する基準の説明とマニュアルの設置が義務づけられている。ホーム内でも定期的に研修を行っています。ホーム内で虐待が見過ごされることがないように注意を払っています。	虐待の芽となる状況は、早い段階での解決を重視し、定例の研修のみに留まらず、会議等で、他の高齢者施設等で起きた事例を共有し、理解を深める取り組みを継続している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等を行い、必要な知識を取り入れています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、時間を十分にとり、説明を行い、ご家族様の不安や疑問点を解決できるよう、お話をさせていただいています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の設置や、ホームに意見箱を設置しています。家族様の面会時、お話をし、要望をうかがえるように努めています。会社全体で、家族様アンケートを実施し、改善していけるよう心懸けています。少しずつ面会が増えてきています。	利用者家族との、忌憚なく話し合える関係性を大切にしている。良いことも悪いことも、何かあれば適宜に連絡し、家族からの信頼を得ている。年1回の法人主催の家族アンケートで把握した意見は、真摯に受け止め、内容を職員間で共有し、改善に努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なホーム全体会議、各ユニット会議ほか月2回の面談を行っています。	法人が毎年行う職員満足度アンケート結果から、ホームの強み・弱みを抽出し、より良い運営に向け、業務改善を話し合っている。また、各ユニットリーダーが中心となり、会議や日常の業務中に出た職員意見を吸い上げ、管理者に相談する仕組みを作っている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	法人の規模が大きいいため、全体の平等性も考慮しながら、環境作りに努めています。	法人の手厚い福利厚生や、ホームの、家庭の事情に配慮した、柔軟な勤務体制など、働きやすい職場環境づくりに力を入れ、勤務歴の長い職員が増えている。職員間の協力で、職場環境を整えようという意識があり、チームの一体感が生まれている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回のホーム内での研修や、WEBの映像で研修を行っています。業務中での疑問点などは自主的に調べられるよう職員の育成に努めています。研修参加などは、勤務を考慮し参加できるよう配慮をしています。最近では、紙面での研修を多く行っています。スマートフォンでの研修も行っています。	法人共通の年間研修計画があり、充実した研修を実施している。資格取得を目指している職員には、勤務調整などを行い、良好な受験環境を提供できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣での会議が行われておりません。地域の新規のお店へお茶を楽しみ交流をしていく機会を増やしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様と対等な立場で、お話をお聞きし、利用者様と共に支えることを常に頭においてお話をさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話の中から、困ったことなどをお伺いし、スタッフ間でその都度、また、会議やカンファレンスなどで、話し合いを行い、できるだけご本人様の希望に添えるような支援に努めています。	意志表出が難しく、表情や身振り手振りで表現する利用者もおられることから、それをうまく汲み取れるように、深いかわりのコミュニケーションに努めている。職員は、利用者に寄り添い、ゆっくり話を聞く時間を作るなど、利用者が本音を伝えやすいように工夫している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な見直しの時期はカンファレンスシートやアセスメントの取り直しを行い、その意見をケアプランに反映させるようにしています。ご家族様や本人の言葉なども記録に残すように努めています。	介護計画の見直しは、本人・家族・職員の意見を集約し、利用者にとって最善の支援内容を検討している。利用者が立てた「行きたい目標」も組み込み、利用者自身が目標を達成を目指し、自身のやることを意識できるように介護計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ノーティス導入(スマートフォンにて入力)により、日々の様子を記録し把握。スタッフ間で情報共有しながら、日々のケアや、ケアプランの見直しに活用しています。タイムリーで情報共有できています。生産性向上推進加算始まりました。	記録をICT化し、日々の気づきを蓄積した情報の振り返りが容易になり、利用者の様子の変化等の共有に大きな有効性がある。項目ごとに入力した記録を、介護計画作成時に必要なものを抽出し、反映している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様や、ご本人から入居前の生活をお聞きし、出来るだけ今までの生活やサービス利用の経緯の把握に努めています。ご本人様の状況や希望を反映しながら、柔軟な姿勢での支援を心がけています。	家族の高齢化に配慮し、ICT化への対応が難しい時には、その家族に合わせた方法で連絡を取るよう努めている。病院受診時等、家族の車に車いすを載せられない等の状況に応じ、職員が送迎を受け持つ等、柔軟に対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	堤防の散歩、喫茶店やスーパー等に行くことで楽しんでいただけるよう努めています。今年も、地域の祭りや御神輿が中止となっています。今春から外出支援・外出デーを設けています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診も増え、ご家族様の希望に合うようにしています。他の医療機関の受診はご家族様の協力をいただいておりますが、困難な場合もあり、その際は、スタッフで支援を行っています。	利用者・家族の意向に沿い、かかりつけ医を選択できるように支援している。現在は、ホーム協力医の訪問診療を選択する利用者が多い。医療連携の訪問看護師や薬局とも連携し、利用者が適切な医療を受けられる体制を整えている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	以前は入院時にスタッフが、お見舞いし状況把握に努めていました。面会時は病院の関係者から、状況を伺う・ご家族様と共有するなどしております。コロナ禍以降も、面会はできないことも多く、入院先とお電話にて情報共有しています。	入院中は、医療機関と適宜連絡を取り合い情報共有を図るとともに、家族と今後の方針を話し合い、早期退院に向けた検討を行っている。退院後は、ホーム内でできる生活リハビリに重点を置いた介護計画を立て、機能回復に向けた取り組みを実践している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の指針を説明し、理解して頂けるように努めています。継続的な医療行為や治療が必要となり、長期入院となった場合などご家族様や医療機関の方を含め話し合いを行っています。ご家族・かかりつけ医と連絡を密にとっています。今期も看取りを行いました。	入居契約時に、ホームの指針を説明し、同意を得ている。重度化が認められる際には、入居時に説明した指針を改めて説明し、本人にとっての最善を話し合い、その後の方針を決定している。ホームでの看取りの希望には、家族の協力を得ながら対応している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを見やすい場所に提示し、常に緊急時の対応が確認できるようにしています。AEDの講習や、応急処置の仕方を受講しています。今期、急変があり、その後全員への研修を実施、再度周知いたしました。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防避難訓練を行っています。(年2回)ご家族様で可能な方は、メールアドレスを伺うことができました。水害時には、垂直避難の旨をお便りでお伝えしました。ホーム備蓄品の増量し、ポータブルトイレ、発電機など増やしました。使用の方法を周知していきたいと思っています。	毎年行っている定期消防訓練に加え、BCPの訓練も実施し、備蓄品の確認や発電機の使い方等の確認を行っている。ハザードマップ上、水害地域に在ることもあり、地域包括支援センターと、地域の協力体制について検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にホーム内でのプライバシー保護の研修を行い、利用者様のプライバシーを損ねないような声掛けや対応をするよう努めています。不適切なケアのチェックを行っています。	利用者の自尊心を傷つけない声掛けの配慮だけではなく、利用者自身が触れられたくない話題は出さないなどの配慮に努めている。排泄時の声掛けなどには特に注意を払い、不適切ケアに対する意識を統一し、日常支援を実践している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプラン作成時などご本人の思いを伺い、日常生活の中でも、食事の好みや衣服の選択が出来るなど、簡単な事を決定できるように努めています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムを把握し、何をしたいのか・どうしたいのかを伺いながら対応出来る様に努めています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを把握し、希望に添える様に提供しています。お盆拭きや、洗濯取り込み・たたみなど利用者様と一緒にを行っています。梅干しを毎年つけており、皆様に 梅干し漬の準備をします。毎月継続して、リクエストメニューの日を設けています。	調理スタッフを配置し、3食手作りの食事を提供している。利用者の嗜好に合わせ、柔軟にメニューのアレンジも行っている。調理等に、可能な範囲で利用者が関わり、一緒に作る楽しみを支援している。外食は外出支援を兼ねて行っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様おひとりおひとりの摂取量を把握し、身体状況にあった盛り付けをしています。、食事量や水分摂取量の把握をし、健康維持が出来る様に努めています。毎月、水分量の集計を行い、把握に努めています。自立支援介護に注力しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアが出来るよう声掛けをしています。協力歯科医の往診や、必要な方には歯科衛生士さんの口腔ケアなど個々に応じて週一回または1か月に1回行っています。舌ブラシを使いケアをしています。(殆どの方が歯科指導を受けています)	口腔ケアに力を入れ、利用者一人ひとりの状況に合わせた対応を行っている。歯科医や歯科衛生士から歯磨きのポイント等の指導を受け、日々の口腔ケアに活かしている。義歯の管理は職員が行い、毎日洗浄して清潔保持に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様のそれぞれの排泄パターンの把握をし、その方に合わせた介助を行っています。排泄用品もその方にあったものを提供しています。フロア会議などで情報を共有しながら、話し合っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の希望をお聞きしながらその日の体調を考慮し、定期的に入浴をして頂いています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせ、日中の休息や、就寝の時間を自由にとって頂けるように努めています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は常に確認できる場所においています。また薬の変更時には申し送りノートなど活用し、職員皆が把握できるようにしています。薬局さんによる薬の管理も行われており、気楽に相談が出来ます。またホーム独自で、服薬チェックシートを作成し、服薬事故を防ぐようにしています。	服薬チェックシートに沿った対応を徹底し、服薬事故を無くす取り組みを行っている。小さなミスが大きな事故に繋がると考え、チェックシート通りにできなかった時も事故報告として扱い、服薬事故防止に取り組んでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る範囲で、役割を持って生活できるよう支援を行っています。希望に応じ出来る範囲で外出や、散歩などの個別支援をし、気分転換を図っています。	手持ち無沙汰にしている利用者には、職員が家事の手伝い等を役割にできるように、声掛けを行い、得意なことを、楽しんでもできるよう支援している。職員と一対一で話をしたい時には、外に出て、散歩をしながらゆっくりと話ができる時間を作る等を工夫している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の個別支援については、天気や体調を考慮し近隣への散歩などを行うようにしています。また買い物や外食、誕生会なども、ご家族様のご協力を得ながら行っています。	気候の良い時期、天気の良い日には、近隣の散歩に出かけ、利用者に、季節の移り変わりを感じてもらうことを大切にしている。花見を兼ね、近くの川沿いまで歩いて行き、たこ焼きを買って帰る等、季節の楽しみもある。家族外出で、買い物や外食を楽しむ利用者もおられる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、金銭事故を防ぐため、ご本人様の希望をお伺いし、同席のもと使用できるようにしています。敷地内自販機の飲料の購入は希望時にあります。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望を伺い、ご家族さまや大切な方との電話をつなげたり、手紙など自由にやり取りが出来る様に支援しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すよう飾り付をしたり、清潔な環境でお過ごしいただけるよう、変わらず清掃、消毒に力を入れています。換気にも気をつけています。	室内でも季節を感じられるように、担当のスタッフが、利用者と一緒に、季節感のある飾り付けを工夫している。リビングの掃除は利用者も可能な範囲で参加し、利用者の居場所づくりにも配慮し、清潔感のある環境を整備している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置していましたが、ご利用者様同士がお話できる空間があります。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前からのご本人の使い慣れたものや家具を使われる方や、何もない方が良いといわれる方もご本人・ご家族様と相談しながら自由に空間を使っていただけるように努めています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、居室・トイレ・浴室などわかりやすく標しています。居室には、転倒時、衝撃を和らげる緩衝材を使用する、直ぐに支えになるよう動線に家具を設置するなどしています。救急時には、どけます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	2190100012		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム中西郷		
所在地	岐阜県岐阜市中西郷1丁目71番地		
自己評価作成日	令和6年12月6日	評価結果市町村受理日	令和7年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kagikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100012-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和6年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針にも掲げているように、生活機能に関する助言をPTさんにいただき、病歴、体調を考慮しながら目標を決めて、体力や体幹機能保持ができるよう支援させていただいています。食事量が少なくなっている方に対しても、食べやすいものを提供できるように個別に工夫、対応を行っております。申し送りやきずきシートなど情報を共有することで病気等の早期発見に努めています。笑顔でお過ごしいただけるように、以前のように外出の機会を設けています。(お誕生日外出など)自立支援介護を取り入れ、水分、栄養を摂り、無理のない範囲で運動されたりと、お元気で過ごしていただけるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社で定めた運営理念、ホームで掲げた理念等、朝礼・夕礼時に唱和し、本日の目標を決めて実践しています。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	福祉村の行事や地域のお祭りに参加し、地域との交流ができるように心がけています。(今年も、地域行事も行われておらず、参加できておりません。)ブログの配信を多くできるよう心掛けています。			
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、行事や運営状況の報告を行っています。地域包括や、薬剤師、民生委員の方からアドバイスをいただき、スタッフ会議等で情報共有を行っています。レク時に開催など工夫しています。			
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議や、運営推進会議への参加をいただいただくなど、電話での相談等を行っています。(R3.11.26以降 会議はございません。			
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人からも身体拘束に関する基準の説明とマニュアルの設置が義務づけられている。ホーム内でも定期的に研修を行っています。ホーム内での身体拘束は行っていません。			
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人からも虐待防止に関する基準の説明とマニュアルの設置が義務づけられている。ホーム内でも定期的に研修を行っています。ホーム内で虐待が見過ごされることがないように注意を払っています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等を行い、必要な知識を取り入れています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、時間を十分にとり、説明を行い、ご家族様の不安や疑問点を解決できるよう、お話をさせていただいています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の設置や、ホームに意見箱を設置しています。家族様の面会時、お話をし、要望をうかがえるように努めています。会社全体で、家族様アンケートを実施し、改善していけるよう心懸けています。少しずつ面会が増えてきています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なホーム全体会議、各ユニット会議ほか月2回の面談を行っています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	法人の規模が大きいいため、全体の平等性も考慮しながら、環境作りに努めています。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回のホーム内での研修や、WEBの映像で研修を行っています。業務中での疑問点などは自主的に調べられるよう職員の育成に努めています。研修参加などは、勤務を考慮し参加できるよう配慮をしています。最近は、紙面での研修を多く行っています。スマートフォンでの研修も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣での会議が行われておりません。地域の新規のお店へお茶を楽しみ交流をしていく機会を増やしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様と対等な立場で、お話をお聞きし、利用者様と共に支えることを常に頭においてお話をさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話の中から、困ったことなどをお伺いし、スタッフ間でその都度、また、会議やカンファレンスなどで、話し合いを行い、できるだけご本人様の希望に添えるような支援に努めています。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な見直しの時期はカンファレンスシートやアセスメントの取り直しを行い、その意見をケアプランに反映させるようにしています。ご家族様や本人の言葉なども記録に残すように努めています。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ノーティス導入(スマートフォンにて入力)により、日々の様子を記録し把握。スタッフ間で情報共有しながら、日々のケアや、ケアプランの見直しに活用しています。タイムリーで情報共有できています。生産性向上推進加算始まりました。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様や、ご本人から入居前の生活をお聞きし、出来るだけ今までの生活やサービス利用の経緯の把握に努めています。ご本人様の状況や希望を反映しながら、柔軟な姿勢での支援を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	堤防の散歩、喫茶店やスーパー等に行くことで楽しんでいただけるよう努めています。今年も、地域の祭りや御神輿が中止となっています。今春から外出支援・外出デーを設けています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診も増え、ご家族様の希望に合うようにしています。他の医療機関の受診はご家族様の協力をいただいておりますが、困難な場合もあり、その際は、スタッフで支援を行っています。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	以前は入院時にスタッフが、お見舞いし状況把握に努めていました。面会時は病院の関係者から、状況を伺う・ご家族様と共有するなどしております。コロナ禍以降も、面会はできないことも多く、入院先とお電話にて情報共有しています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の指針を説明し、理解して頂けるように努めています。継続的な医療行為や治療が必要となり、長期入院となった場合などご家族様や医療機関の方を含め話し合いを行っています。ご家族・かかりつけ医と連絡を密にとっています。今期も看取りを行いました。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを見やすい場所に提示し、常に緊急時の対応が確認できるようにしています。AEDの講習や、応急処置の仕方を受講しています。今期、急変があり、その後全員への研修を実施、再度周知いたしました。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防避難訓練を行っています。(年2回)ご家族様で可能な方は、メールアドレスを伺うことができました。水害時には、垂直避難の旨をお便りでお伝えしました。ホーム備蓄品の増量し、ポータトイレ、発電機など増やしました。使用の方法を周知していきたいと思っています。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にホーム内でのプライバシー保護の研修を行い、利用者様のプライバシーを損ねないような声掛けや対応をするよう努めています。不適切なケアのチェックを行っています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプラン作成時などご本人の思いを伺い、日常生活の中でも、食事の好みや衣服の選択が出来るなど、簡単な事を決定できるように努めています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムを把握し、何をしたいのか・どうしたいのかを伺いながら対応出来る様に努めています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを把握し、希望に添える様に提供しています。お盆拭きや、洗濯取り込み・たたみなど利用者様と一緒にを行っています。梅干しを毎年つけており、皆様に 梅干し漬の準備をします。毎月継続して、リクエストメニューの日を設けています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様おひとりおひとりの摂取量を把握し、身体状況にあった盛り付けをしています。、食事量や水分摂取量の把握をし、健康維持が出来る様に努めています。毎月、水分量の集計を行い、把握に努めています。自立支援介護に注力しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアが出来るよう声掛けをしています。協力歯科医の往診や、必要な方には歯科衛生士さんの口腔ケアなど個々に応じて週一回または1か月に1回行っています。舌ブラシを使いケアをしています。(殆どの方が歯科指導を受けています)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様のそれぞれの排泄パターンの把握をし、その方に合わせた介助を行っています。排泄用品もその方にあったものを提供しています。フロア会議などで情報を共有しながら、話し合っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の希望をお聞きしながらその日の体調を考慮し、定期的に入浴をして頂いています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせ、日中の休息や、就寝の時間を自由にとって頂けるように努めています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は常に確認できる場所においています。また薬の変更時には申し送りノートなど活用し、職員皆が把握できるようにしています。薬局さんによる薬の管理も行われており、気楽に相談が出来ます。またホーム独自で、服薬チェックシートを作成し、服薬事故を防ぐようにしています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る範囲で、役割を持って生活できるよう支援を行っています。希望に応じ出来る範囲で外出や、散歩などの個別支援をし、気分転換を図っています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の個別支援については、天気や体調を考慮し近隣への散歩などを行うようにしています。また買い物や外食、誕生会なども、ご家族様のご協力を得ながら行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、金銭事故を防ぐため、ご本人様の希望をお伺いし、同席のもと使用できるようにしています。敷地内自販機の飲料の購入は希望時にあります。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望を伺い、ご家族さまや大切な方との電話をつなげたり、手紙など自由にやり取りが出来る様に支援しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すよう飾り付をしたり、清潔な環境でお過ごしいただけるよう、変わらず清掃、消毒に力を入れています。換気にも気をつけています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置していましたが、ご利用者様同士がお話できる空間があります。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前からのご本人の使い慣れたものや家具を使われる方や、何もない方が良いといわれる方もご本人・ご家族様と相談しながら自由に空間を使っていただけるように努めています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、居室・トイレ・浴室などわかりやすく標しています。居室には、転倒時、衝撃を和らげる緩衝材を使用する、直ぐに支えになるよう動線に家具を設置するなどしています。救急時には、どけます。		